

## インタビュー・制新政意

伊藤昇県土木部管理課建設計画調整室長に聞く

美しく文化の薫る豊かな県土を後世に  
「アルカディア街道復興計画事業」の意義

県は今年度「アルカディア街道復興計画事業」（「アルカディア街道」ルネサンス21）に取り組む。明治初期に本県を旅したイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが「アジアのアルカディア（桃源郷）」と絶賛した要素を見直し、それを地域づくりに生かしていこうというもの。今、なぜアルカディアなのか、県土木部管理課建設計画調整室の伊藤昇室長に聞いた。

土木部の事業として「アルカディア」に取り組む意味は。

伊藤 イザベラ・バードは「日本奥地紀行」の中で、明治初期の山形の田園風景を絶賛しております。この「奥地紀行」で言われている「美しい環境」「美しい景色」とか「日本の花園の一つ」「完璧な文化」「豊かな町や村」などは現在の建設行政にとっても重要な課題といえる。建設行政の分野ではこれまで、「県新総合発展計画」の方向に沿って、「県土景観ガイドプラン」「屋外広告物条例」などの施策を打ち出してきたが、県民の県土づくりに対する意識が高まっており、さらに質の高い社会資本整備が必要になってきていると考えられる。地域づくりと社会資本整備とが有機的に

結合した建設行政が求められている。新しいものを造るだけでなく、文化遺産の保全や活用を考えて社会資本の質的蓄積を図ること、自然や産業と調和した景観づくりに取り組むこと、地域づくりによる観光ビジネス起こしといった活力源にすることなどだ。多角的なアプローチが必要になっている。

イザベラ・バードが通った道を再現するのが目的ではないのですか。

伊藤 忘れ去られているルートの資源としての価値を見直し、生かしていこうという視点もあるわけで、再現することを全く除外するものではない。また、イザベラ・バードが通ったルートだけに限定するものでもないし、対象を道路に限るわけでもない。周辺の地域資

源を広く対象とし、点から線へつなぎ、線から面へ広げ、生かしていくことを考えたい。景観からのアプローチも大きなテーマになるが、施設単体だけを考えると望ましい景観にはならないので、広い地域が対象になる。資源と資源をつないで生かすアプローチもあるだろうから、市町村間の連携も必要になる。自然と暮らしと産業との調和を進めるアプローチも必要であり、相互の関係性を再構築することもあろう。単にイザベラ・バードの時代に戻せばよいというものではない。

地域づくりそのものという印象だが。

伊藤 その通りだ。ただ、事業を進める方法としては行政が行うべきもの、県民が行うべきもの、行政と県民とが一緒に行うべきもの、県と大別できよう。行政が行うものには、県の各部の協力を得ながら行うものが出てくるだろうし、行政内部の連携が必要になる。県民が行うものについても、既存の地域づくりグループの自発的な活動を促進する方法やNPO（特定非営利法人）の力を借りる場合など、多様な方法がある。地域連携による地

## 「日本奥地紀行」で賞賛している記述の抜粋

(高梨健吉訳)

### 【第18信：上ノ山にて】

「家の女たちは、私が暑くて困っているのを見て、うやうやしく団扇をもってきて、まる1時間も私をあおいでくれた。料金をたずねると、少しもいらぬ、と言ひ、どうしても受け取らなかつた。...彼らの親切には心をひどく打たれるものがあつた」

「米沢平野(置賜盆地)は、長さ30マイル、10ないし18マイルの幅があり、日本の花園の1つである。木立も多く、灌漑がよくなされ、豊かな町や村が多い」

「小松は美しい環境にある町で、人口は3,000、綿製品や絹、酒を手広く商売している」

「米沢平野は、南に繁栄する米沢の町があり、北には湯治客の多い温泉場の赤湯があり、全くエデンの園である。『鋤で耕したというより鉛筆で描いたように』美しい。米、綿、とうもろこし、煙草、麻、藍、大豆、茄子、クルミ、西瓜、きゅうり、柿、杏、ざくろを豊富に栽培している。実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア(桃源郷)である。自力で栄えるこの肥沃な大地は、すべて、それを耕作している人々の所有するところのものである。彼らは、葡萄、いちじく、ざくろの木の下に住み、圧迫のない自由な暮らしをしている」

「上ノ山は清潔で空気がからりとしたところである。美しい宿屋が高いところにあり、楽しげな家々には庭園があり、丘を越える散歩道がたくさんある。...もし、ここが外国人の容易に来られる場所であつたら、美しい景色を味わいながら各方面にここから遠足もできるから、彼らにとって健康的な保養地となるであろう」

「この街道筋は、日本旅行の大きなルートの一つとなっている。温泉場を訪れて、彼らの風習や娯楽、そしてヨーロッパから何も取り入れていないのにまったく完璧な文化を観察するのは興味深いことだ」

### 【第19信：金山にて 7月16日】

「素晴らしい道を3日間旅して、60マイル近くをやつてきた。山形県は非常に繁栄しており、進歩的で活動的であるという印象を受ける。上ノ山を出るとまもなく山形平野に入ったが、人口が多く、よく耕作されており、幅広い道路には交通量も多く、富裕で文化的に見える」

「今朝新庄を出てから、険しい尾根を越えて、非常に美しい風変わりな盆地に入った。ピラミッド形の丘陵が半円を描いており、その山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向かう通行をすべて阻止しているように見えるので、ますます奇異の感を与えた。その麓に金山の町がある。ロマンチックな雰囲気のある場所である」

域づくり」、「交流広がる美しい山形」づくりへ向けた、市町村や県民の意欲が欠かせない。と同時に、事業が着実に推進されていく体制づくり、システム形成も大切になると考えている。単年度事業でできるものもあるが、長い時間をかけて取り組む課題もあるだろう。価値の創造とアイデンティティーの確立へ向けた県民運動としても取り組んでいきた

い。  
取り組みの体制は。  
伊藤 県内の各界を代表する「アルカディア復興推進会議」を設置して推進方向についてご意見をいただき、「アルカディア街道復興作業部会」を設けて事業内容を検討していただく。土木部内に「研究会」を設置して取り組んでいく。今年度は資源調査、利活用方法の

検討などを踏まえた「基本構想」を策定し、具体的に事業を展開するのは来年度からとなる。街道沿いの各地から「ここにこんな資源がある」「こうすればよくなる」といった積極的な提案が出ることを期待し、自ら地域資源の保全や利活用に取り組む県民の方々の主体的で多様な活動が数多く起きることを望みた